

| | | | |
|-----|-----------------|------|---|
| 科目名 | 臨床評価学セミナー（作業療法） | 担当教員 | 佐々木 努※ 山田 恭平※ 三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ 松田 竜幸※ 泊り由希子※ 榮 志津江※ ※印は実務経験のある教員を示す。 |
|-----|-----------------|------|---|

| 開講専攻 | 分野 | 種別 | 配当年次 | 開講時期 | 単位数 | 授業形態 |
|-----------|------------------------|----|------|------|-----|------|
| 作業療法学専攻 | 専門科目 | 選択 | 3年次 | 後期 | 1単位 | 演習 |
| ナンバリングコード | 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 | | | | | |
| HR32ABCDE | ①、②、③、④ | | | | | |

| | |
|------|---|
| 科目概要 | 臨床評価学実習に向けて学生同士の小グループ（模擬患者役、療法士役、実施内容確認役）に分かれ、講義内容に記された項目を通して临床上必要な知識・技術・態度について学習し、各自に対し試験（客観的臨床能力試験：OSCE）を実施する。また、これまでの臨床実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について再度理解を深める。 |
| 学習目標 | ① 実習に必要な態度・姿勢について理解する。 ② 実習領域の評価に関連する知識を復習する。 ③ 実習領域の評価に関連する実技を復習する。 |

| 回 | 項目 | 主な学習内容 | 到達目標 | 実務経験 教員担当 項目 |
|----|------|----------------|----------------------|--------------------|
| 1 | 演習1 | 実習に必要な態度・姿勢 | 実習に必要な態度と姿勢を理解する。 | 担当教員 全員 |
| 2 | 演習2 | 実習領域の評価に関連する知識 | 実習領域の評価に関連する知識を復習する。 | 担当教員 全員 |
| 3 | 演習3 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 4 | 演習4 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 5 | 演習5 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 6 | 演習6 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 7 | 演習7 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 8 | 演習8 | 実習領域の評価に関連する実技 | 実習領域の評価に関連する実技を復習する。 | 担当教員 全員 |
| 9 | 演習9 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 10 | 演習10 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 11 | 演習11 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 12 | 演習12 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |

| | | | | |
|----------------------------|-------|---|---|------------|
| 13 | 演習 13 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 14 | 演習 14 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 15 | 演習 15 | 〃 | 〃 | 担当教員 全員 |
| 評価方法 | | 筆記試験 40% 及び 客観的臨床能力試験 (OSCE) 60% | | |
| 課題に対するフィードバック | | 講義、演習を通してフィードバックを行う。 演習中に理解できなかった課題については、個別にオフィスアワーで対応する。 | | |
| 教科図書 | | 特になし | | |
| 参考図書 | | 特になし (演習に必要な資料を随時配布する) | | |
| 学習の準備 | | 臨床評価学実習に向けて、これまで学習した内容を復習すること (45分) | | |
| オフィスアワー | | 毎週月曜日 13:00~14:30。その他の教員については、各担当教員から連絡する。 | | |
| 担当教員欄に※印を付した教員の実務経験 | | 担当教員の実務経験を基に、臨床評価学実習に向け、知識、技術、態度面も含めて客観的臨床能力試験 (OSCE) を実施し、臨床見学実習と同様に、職業人としての常識的行動や責任ある行動、対象者や病院施設のスタッフとの望ましい関係、医療におけるチームワーク、協業について実践的な指導をする。 | | |